

豚熱（CSF）等感染防止対策の徹底について

群馬県でのCSF発生事例の疫学調査結果を踏まえた、CSF発生予防対策が提言されました。

また、気温の低下する冬季にはPEDの発生が増加する傾向があり、令和元年度シーズンも4県で70農場の発生が確認されています。

CSF等の感染防止のために、下記の事項について再度徹底をよろしく願います。

1. 毎日の健康観察と異常豚発見時の早期通報・相談

- ・下痢や死亡頭数の増加等のCSFを疑う症状（「特定症状」）が確認された場合には速やかに家畜保健衛生所にご連絡ください。

2. 飼養衛生管理の重要性の認識

- ・CSFワクチン接種推奨地域は飼養豚への感染リスクが高い地域が設定されています。
- ・CSFワクチン接種農場においても、100%免疫が付与されるわけではなく、免疫を獲得していない豚が存在することが報告されています。
- ・特に離乳豚のみ飼養するエリアでは母豚の移行抗体が低下したワクチン未接種の個体が一定数存在することとなり、適切な飼養衛生管理が行われない場合には、感染のリスクが高くなると考えられます。
- ・離乳豚を飼養する豚舎等では、防鳥ネット設置、作業を行う際の専用の長靴・手袋への交換など、感染防止対策の徹底について改めてお願いします。

3. 適正な飼養衛生管理の徹底

- ・飼養衛生管理基準について自己点検を行い、飼養衛生管理の徹底についてこれまで以上に強化するよう努めてください。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

電話 0463-58-0152 ファクシミリ 0463-58-5679

…CSFワクチン接種について再確認のお願い…

CSFワクチン接種豚のと畜場出荷時の標識について

他県のと畜場において、CSFワクチン接種豚にもかかわらず無標識の豚が出荷された事例や、標識がついていても視認しがたい状況となっている事例が確認されています。

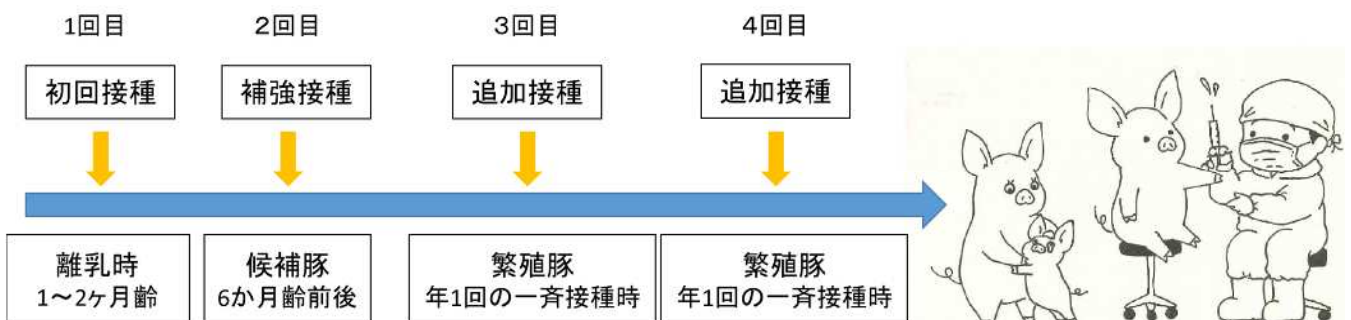
このような場合、と畜場での交差汚染防止対策に混乱が生じる恐れがあるため、出荷時には必ず標識をつけるよう、再度お願い申し上げます。

○標識の例



繁殖候補豚等のCSFワクチン補強接種について

- CSFワクチンについて、繁殖豚、種雄豚（候補豚を含む）等、6か月以上飼養する豚等については、初回接種から6か月後に補強接種、補強接種後は1年ごとに接種を行うこととなっています。
- 繁殖候補豚については離乳時に1回目のワクチン接種を実施しておりますが、繁殖豚一斉接種のタイミングを待つと6か月後の補強接種が漏れてしまう可能性があります。
- つきましては、候補豚にあげるタイミングで補強接種を実施し、その後は年1回の一斉接種に合わせて追加接種を実施していきたいと思ます。（繁殖目的で導入した豚についても同様です。）
- 離乳豚接種の訪問時に合わせて、候補豚の補強接種を実施しますので、該当豚がいる場合には、事前に家畜保健衛生所までお知らせください。



※農場の状況に応じて個別に対応いたします。不明な点等ございましたら家畜保健衛生所までご相談ください。